



# 2016年3月期 第2四半期 決算説明会

2015年10月28日

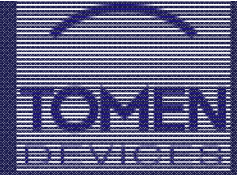
株式会社トーマンデバイス

# 免責事項



本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

# 本日の内容



I

第2四半期 決算概況

II

2015年度 見通し及び取り組み

# 連結業績サマリー



(単位:百万円)

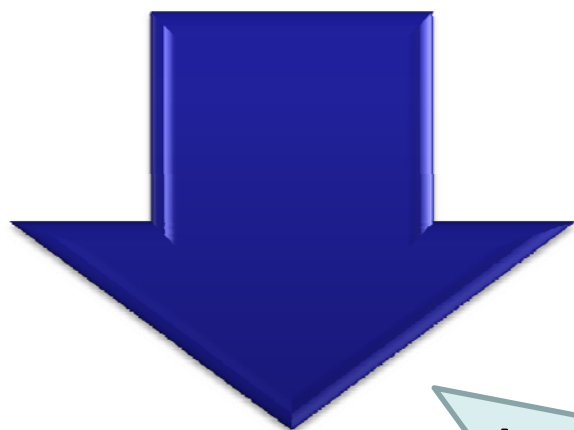
	2014年度 1H	2015年度 1H	増減額	増減比
売上高	84,374	<b>102,383</b>	+18,009	+21.3%
売上総利益	2,208	<b>2,450</b>	+242	+11.0%
営業利益	1,224	<b>1,343</b>	+119	+9.7%
経常利益	1,064	<b>1,152</b>	+88	+8.3%
当期純利益	677	<b>777</b>	+100	+14.7%
総資産	51,700	<b>67,376</b>	—	—
純資産	23,919	<b>25,215</b>	—	—
1株当たり純資産(円)	3,507.14	<b>3695.60</b>	—	—
自己資本比率	46.1%	<b>37.3%</b>	—	—

- 為替変動の沈静化により、為替差損は縮小。
- 国内外で売上を伸ばしたものの、中国市場中心に激しい価格競争に巻き込まれる。売上高総利益率改善は今後の課題。

# 第2四半期決算トピック



価格下落等、逆風の中、増収増益を達成



PC需要の低迷

スマートフォン需要が一段落化

DRAM、パネル価格の下落



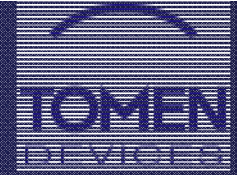
中国市場での拡販

円安長期化

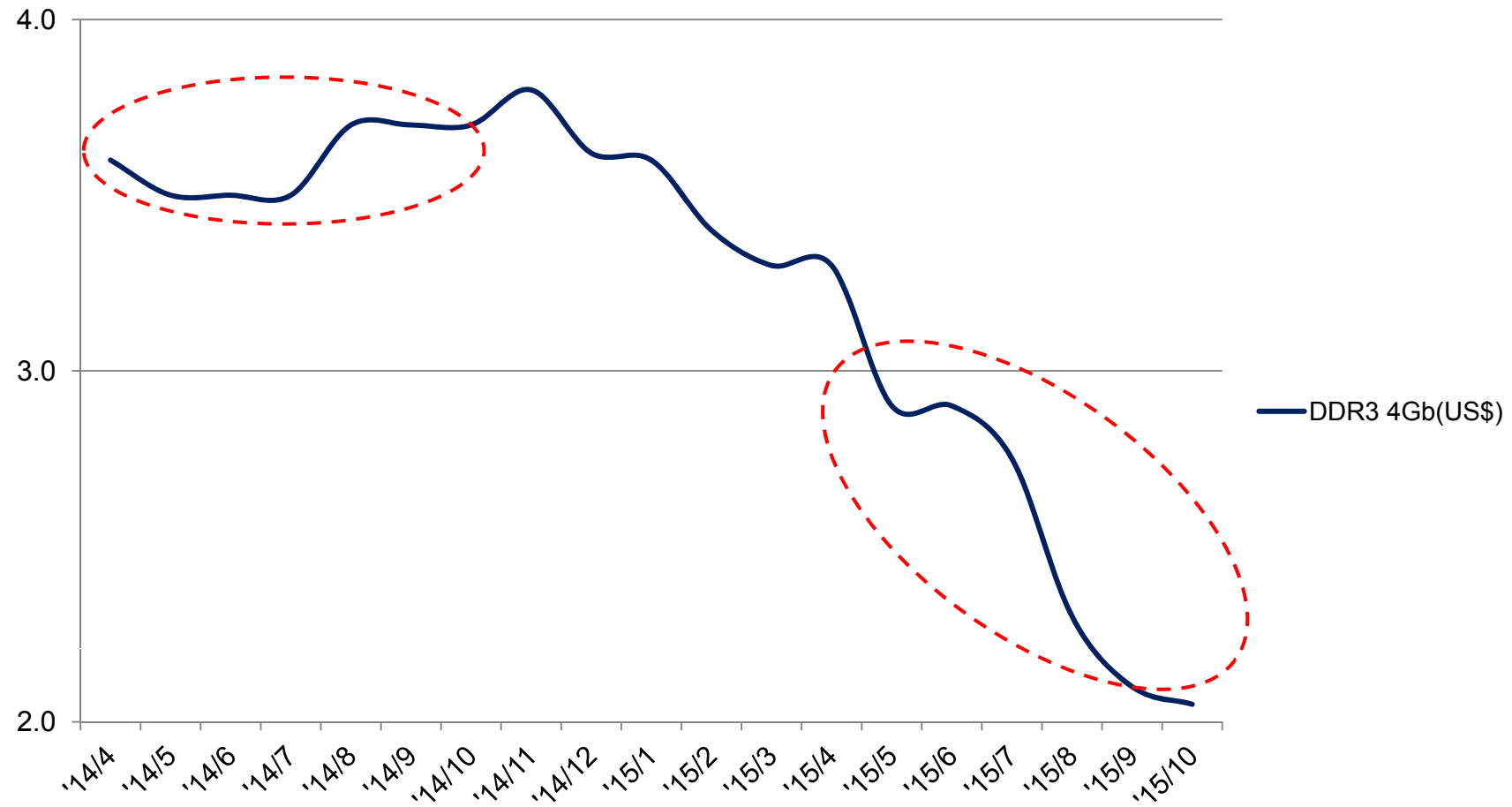
有機ELの国内受注大幅増



# DRAM価格推移（'14年4月～'15年9月）



## PC需要減速に伴い、DRAM価格も下落

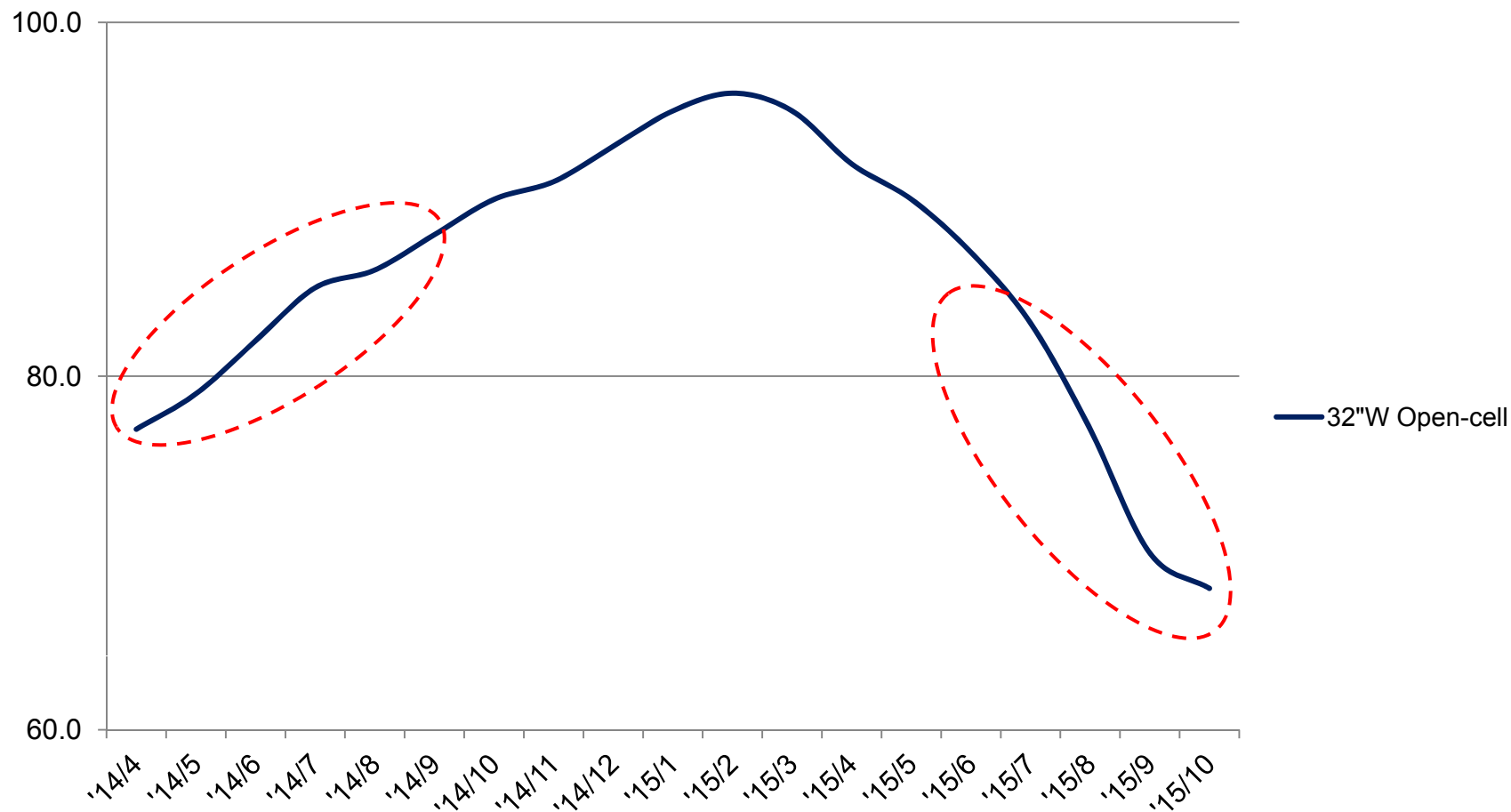


(出所)各種資料をもとに当社で作成

# 液晶パネル価格推移（'14年4月～'15年9月）



競争激化、供給過剰により価格下落傾向が続く



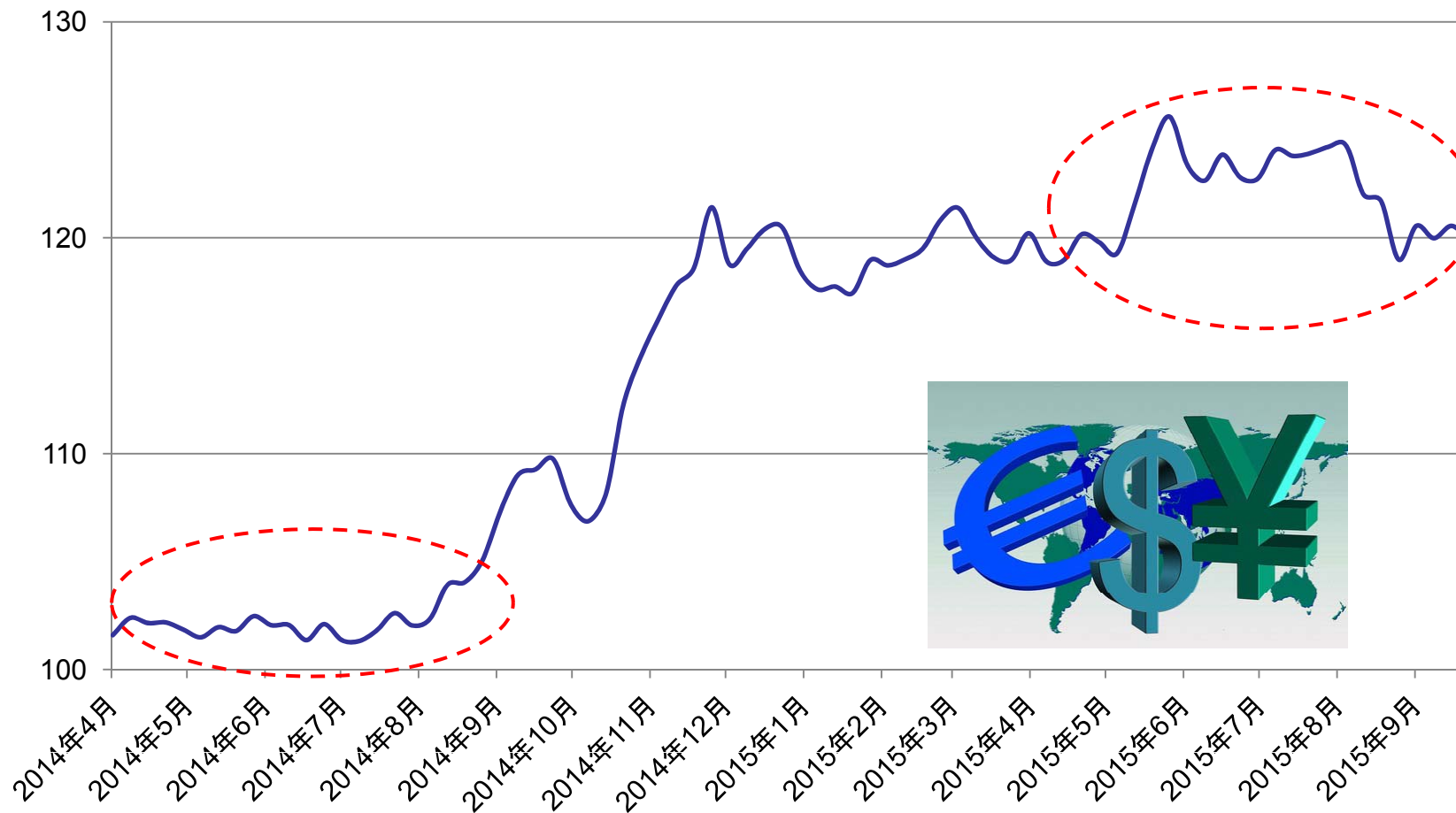
(出所)各種資料をもとに当社で作成

# 為替レート推移（'14年4月1日～'15年9月30日）



## 昨年度後半から急激な円安へ

(アメリカドル / 日本円)



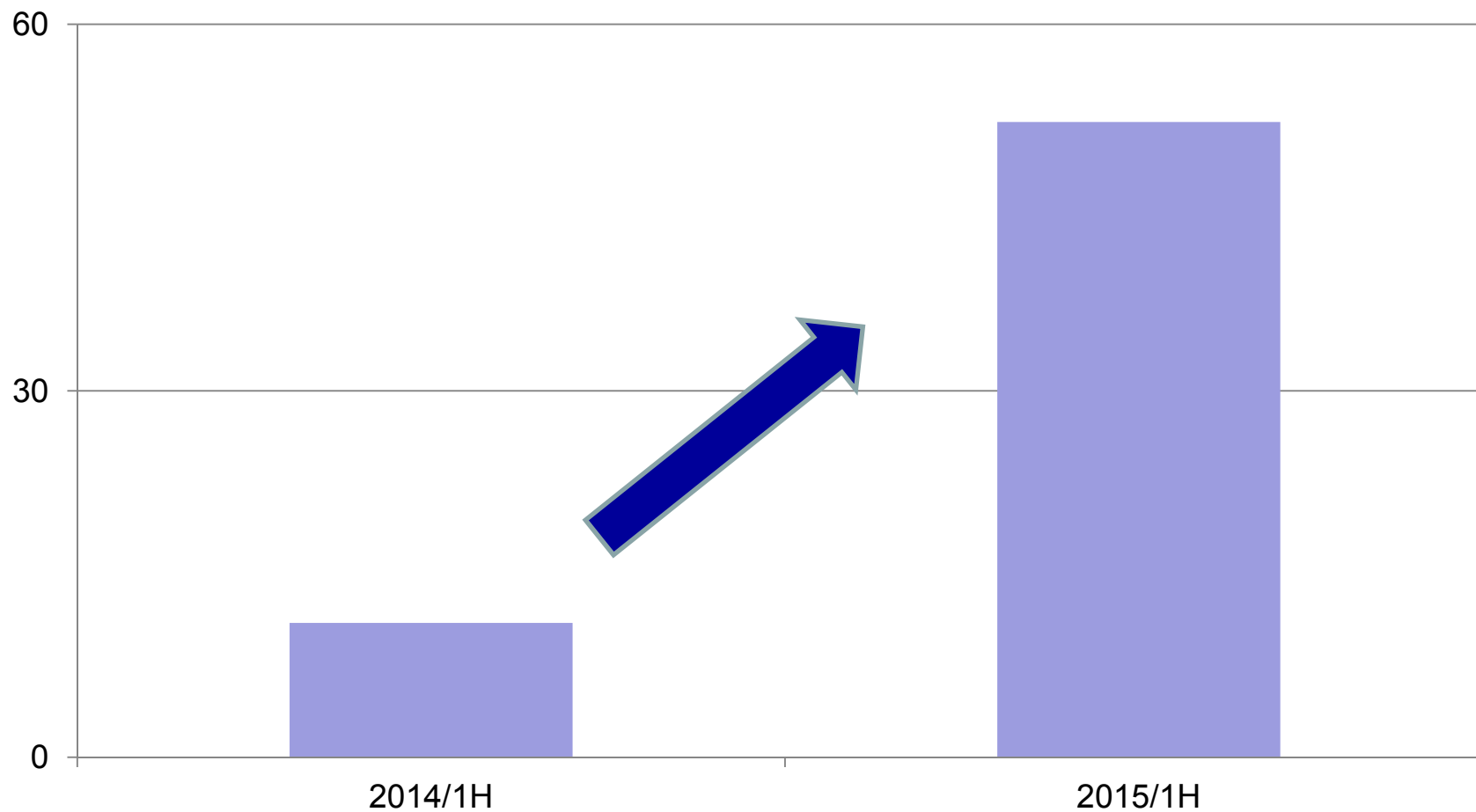


# 有機ELの販売が伸長



## 国内スマートフォン向け販売が大幅に増加

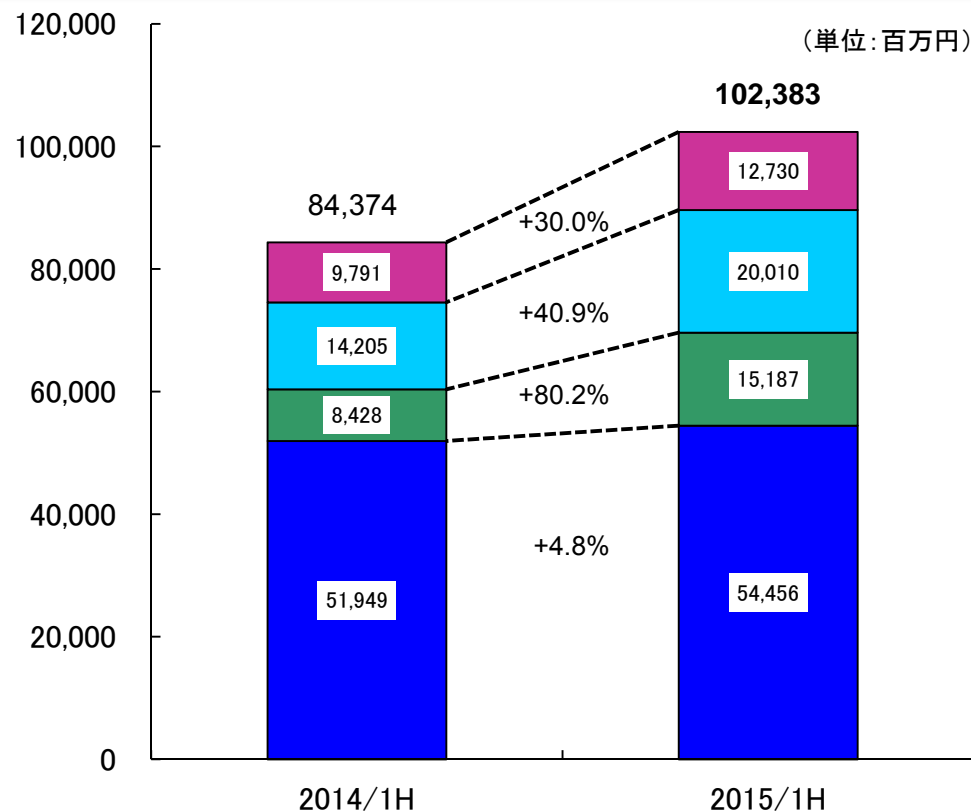
(単位: 億円)



# 商品別 売上高推移



(単位:百万円)	2014/1H	2015/1H	増減率 対前年比
メモリー	51,949	54,456	+4.8%
システム LSI	8,428	15,187	+80.2%
液晶	14,205	20,010	+40.9%
その他	9,791	12,730	+30.0%
合計	84,374	102,383	+21.3%



## ■ メモリー ■

- サーバー向け販売が堅調
- ▼PC向けDRAM需要減及び価格下落

## ■ システムLSI ■

- 中国市場で携帯電話用途向けCISが好調
- ▼タブレット用途向けDDIの販売伸びず

## ■ 液晶 ■

- 中国現地TVメーカー向けの拡販に成功
- ▼価格競争により国内TVメーカー向け販売が低迷

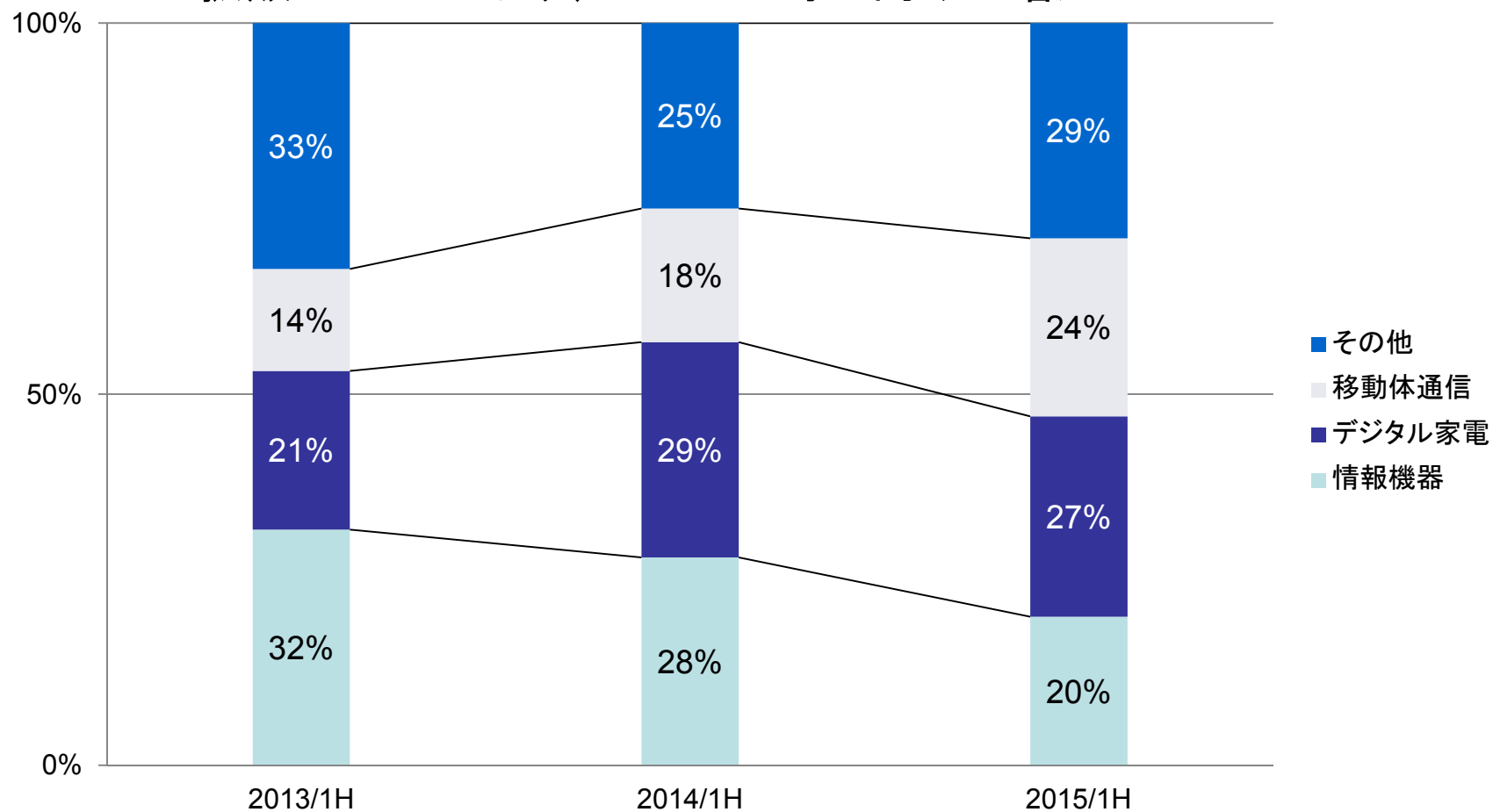
## ■ その他 ■

- タブレット・スマートフォン向けに有機ELを拡販
- ▼競争激化によりTVバックライト用LEDの売上が減少

# 用途別売上高の構成推移

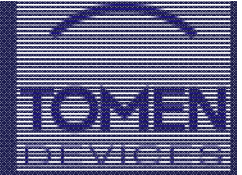


中国でCMOSイメージセンサ、国内で有機ELをそれぞれ  
 拡販したことにより、スマートフォン向けが増加



その他	工作機械、カーナビ、アミューズメント、電子辞書、SDカード等
移動体通信	携帯電話、スマートフォン等
デジタル家電	BD、デジカメ、テレビ等
情報機器	PC、タブレット、サーバー等関連機器

# 本日の内容



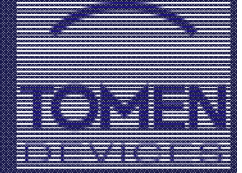
I

第2四半期 決算概況

II

2015年度 見通し及び取り組み

# 2015年度下期の見通し



## Positive

- 中国市場においてスマートフォン用CIS(CMOSイメージセンサ)需要は健在
- Windows Server 2003のサポート終了も影響し、サーバー需要は引き続き堅調
- マイナンバー制度施行により、ITインフラ分野の投資増加に期待

## Negative

- 中国経済の減速
- PC、デジタルカメラ需要は当面停滞状況
- スマートフォン端末メーカーの二極化(高付加価値と低価格)。日系メーカーの立場はさらに苦境に

## 商材の拡大

- サムスングループの取扱商材を拡大し、既存及び新規顧客へアプローチ

## 新規市場の開拓

- IoT、M to M時代の到来に向けた市場調査、種まきの実施。今年度中にウェアラブル端末へデザイン・イン

# 2015年度計画

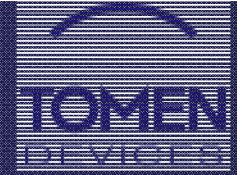


中国経済及び各商材（メモリー、液晶パネル）価格動向の  
先行き不透明感により、計画は修正せず据え置き

	14年度実績	15年度計画	増減	前期比	進捗率
売上高	171,882	<b>174,000</b>	+2,117	1.2%	58.8%
営業利益	2,435	<b>2,000</b>	△435	△17.9%	67.1%
経常利益	1,681	<b>1,600</b>	△81	△4.8%	72.0%
当期純利益	1,056	<b>1,100</b>	43	4.2%	70.6%
1株当たり 当期純利益（円）	155.33	<b>161.73</b>	—	—	—
1株当たり 配当金（円）	40	<b>40</b>	0	—	—

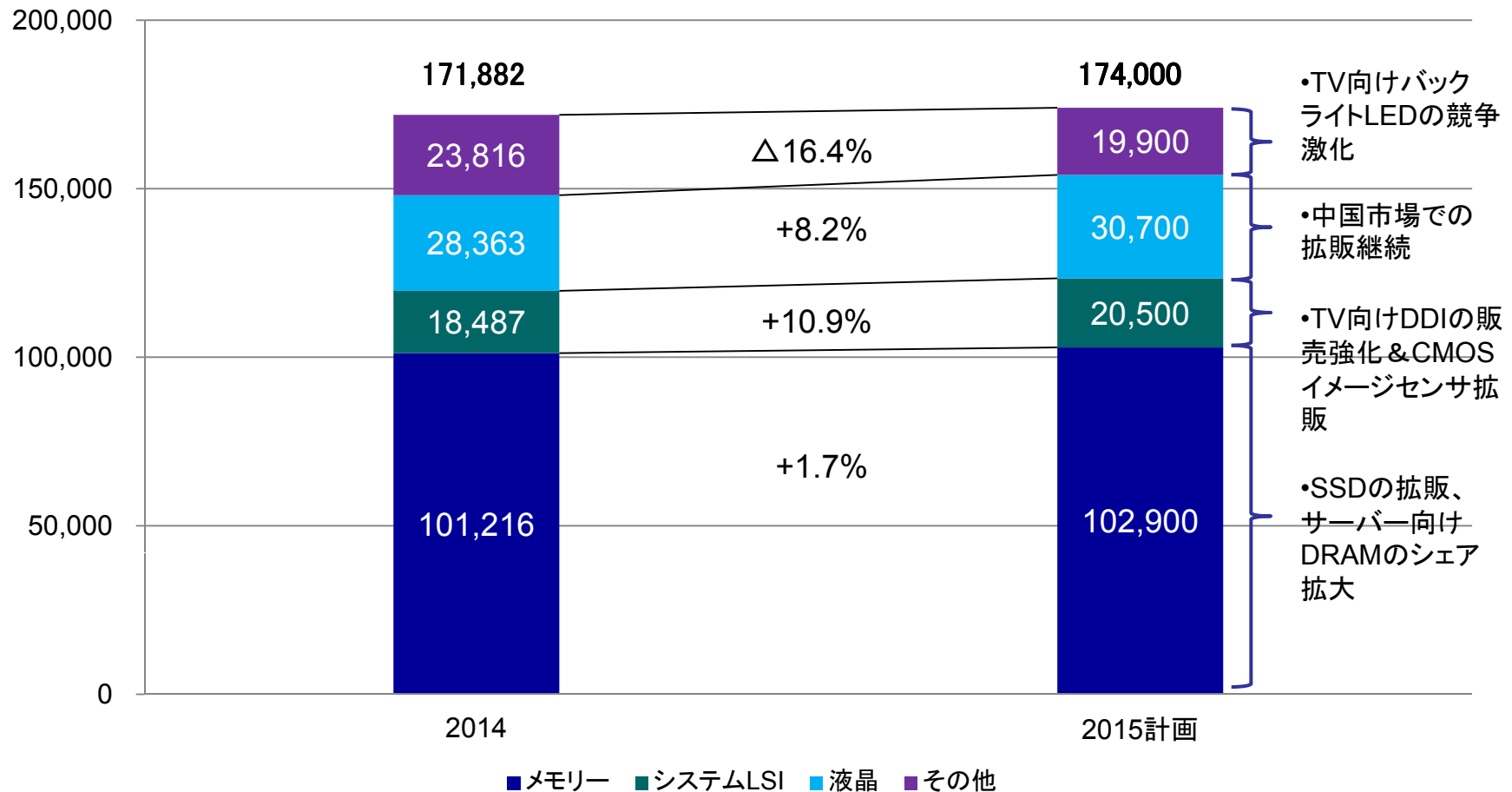
※ 当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

# 商品別売上計画



## 中国経済及び各商材(メモリー、液晶パネル)価格動向の 先行き不透明感により、計画は修正せず据え置き

(単位:百万円)

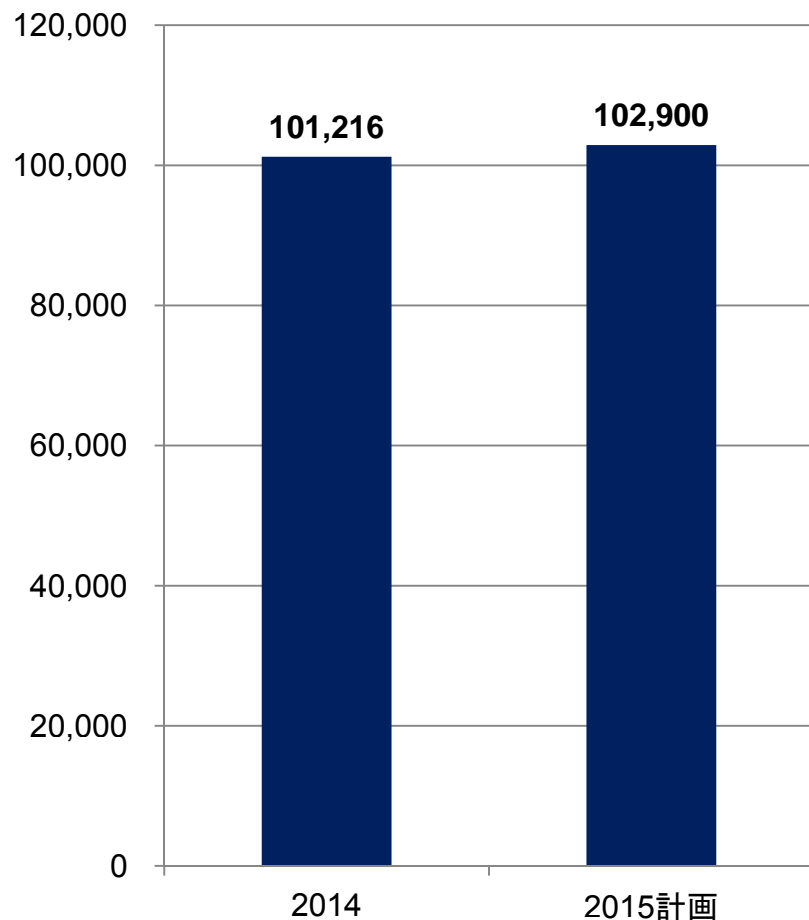




# メモリー分野



(単位: 百万円)



## DRAM

- ・ 高速、低消費電力の最先端DRAM (LP)DDR4を拡販

## NAND

- ・ 車載eMMCのデザインイン活動⇒  
車載市場参入の布石

## SSD

- ・ エンタープライズ分野を皮切りに  
サーバー、ストレージ市場への参入
- ・ PCアタッチレートの拡大

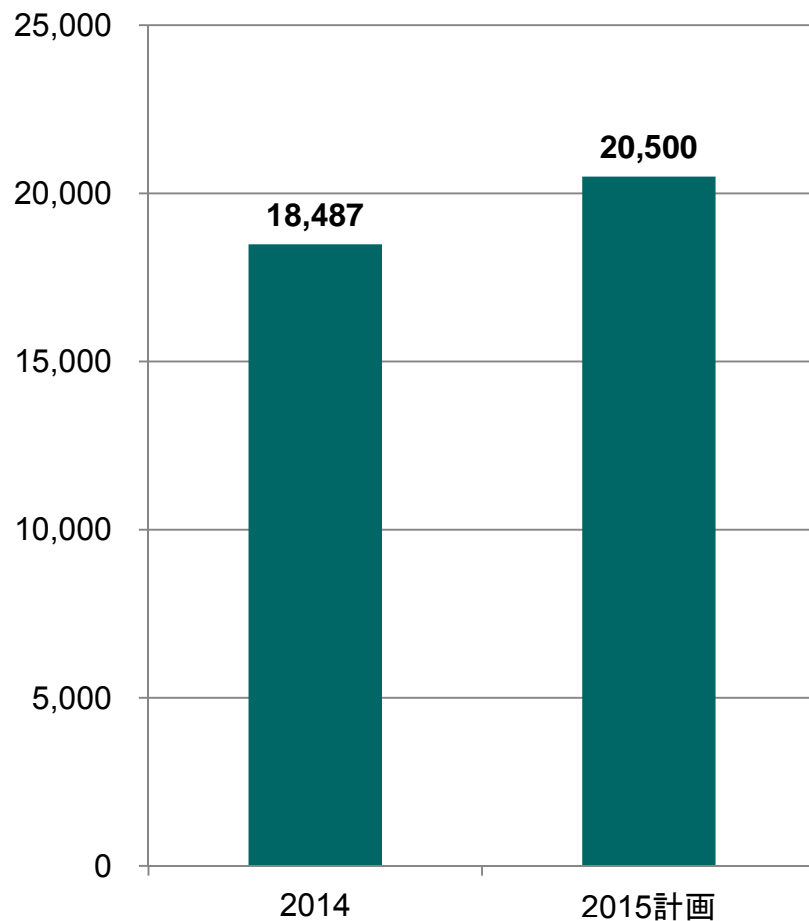
## メモリー全体

- ・ 既存アプリケーションのシェアの極大化 (PC、サーバー、携帯電話、デジタルカメラ)

# システムLSI分野



(単位: 百万円)



## DDI

- ・ TV向けの拡販継続と中小型液晶へのデザインインの促進⇒モバイル端末向けの採用増

## CIS

- ・ 技術サポート力を強化し、中国市場で、拡販を継続
- ・ 国内スマートフォン端末メーカー向けにアプローチ継続

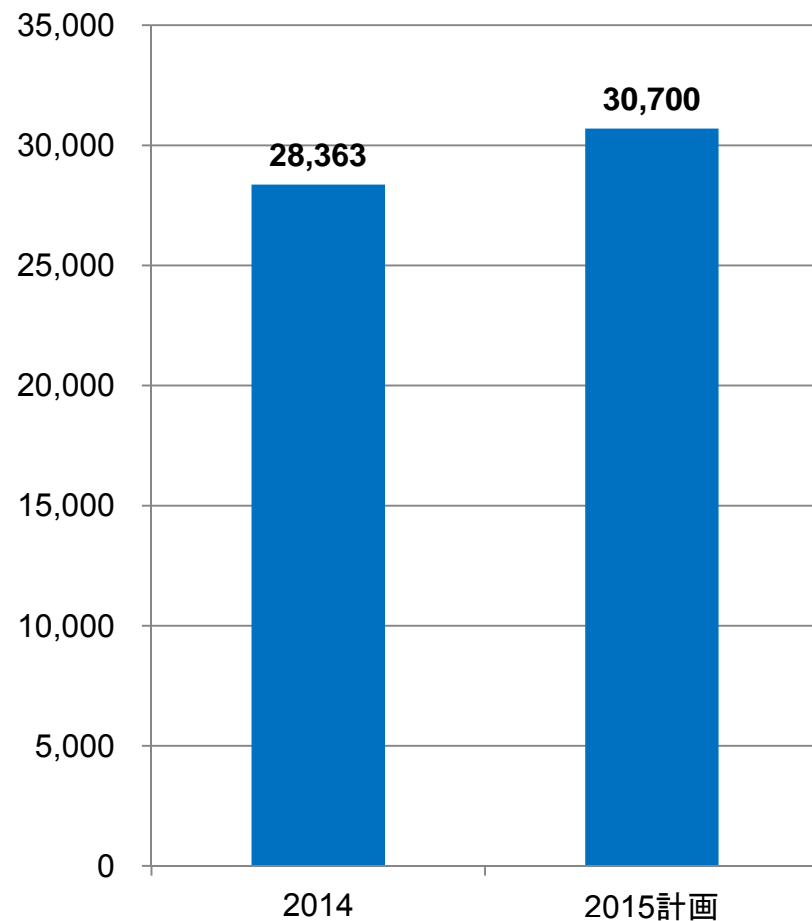
## AP

- ・ スマートフォン、ウェアラブル端末への採用に向けた提案活動を継続

# LCD分野



(単位:百万円)



## モニタ

- デザインイン案件を増加

## デジタルサイネージ

- 開発促進を徹底。今後、東京五輪に向けて、サイネージ市場の活性化に期待。

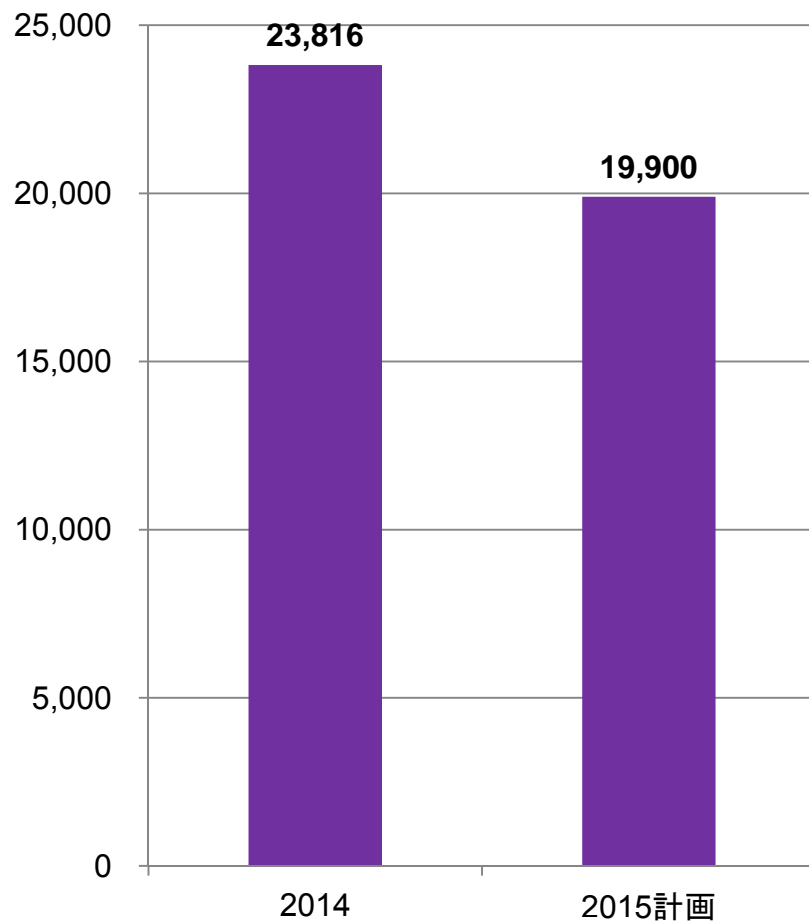
## TV

- マーケットシェアを極大化

## 全体

- 新規案件の開発(特に中国市場)

(単位: 百万円)



## 有機EL

- ・ スマートフォン・タブレット以外のアプリケーションへの採用に向けた開発推進

## LED

- ・ 中小型液晶TV向けへのデザインイン強化
- ・ 従来の顧客・市場のシェア維持・向上。4Kテレビの普及に期待。

## 全体

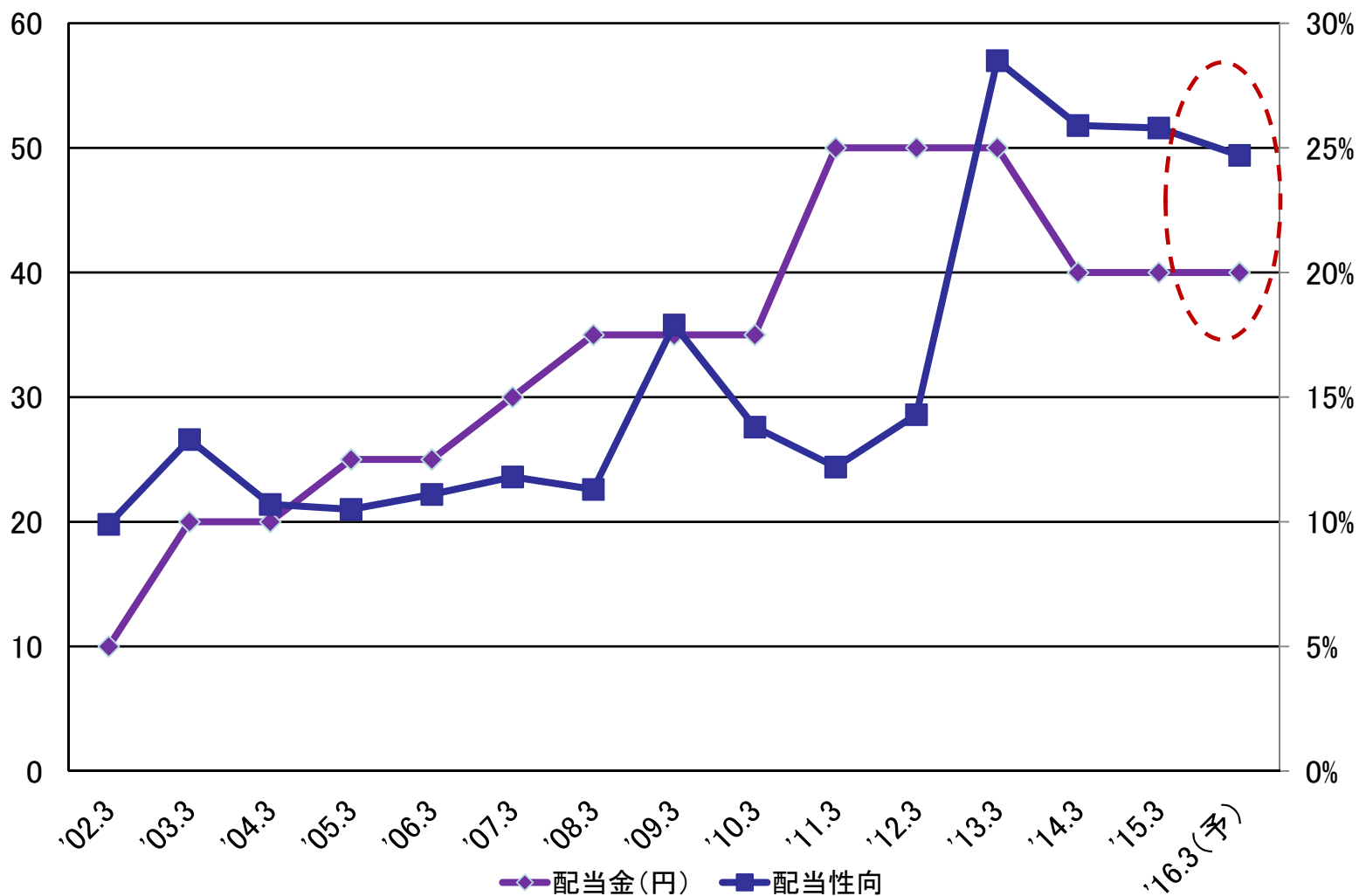
- ・ 新規市場・顧客開拓⇒ウェアラブル端末、車載等

# (ご参考) 配当計画 (1株当たり)



連結配当性向は20～30%を目処。

(単位:円)



ご清聴ありがとうございました

